

第2回研究会速報

■日時: 2008年5月17日(土) 13時~17時 ■会場: 専門学校 東京ミュージック&メディアアーツ尚美



研究会は、13歳のハローワーク公式サイト編集長から和田中学校校長へと転身した代田氏のスピーチでスタート。世間やマスコミの注目度が予想以上に高いことに戸惑いつつも、編集長時代から培ってきた、キャリア教育に関する改革を少しずつ実施する姿勢を表明しました。その後、代田氏に変わって編集長に就任した松尾氏が挨拶。アクセス数600万を突破し、さらに注目を集めるサイトの新方針として、「好き」から



代田氏



松尾氏

仕事を探せる新しい検索機能の追加や、職種の紹介数を倍増する計画などが発表されました。今後の両者の活動に注目です。

官庁の生の意見が参考になった! (アンケート結果)



13:20-14:20 高校生へのアンケート調査詳細報告
調査を通して見つかった新概念
肯定的仕事展望(仮)とは!?

(株) 応用社会心理学研究所の八木氏が、「高校生の"しごと観"と進路選択に関するアンケート」の結果を報告。注目すべきは今回見つかった新しい概念「肯定的仕事展望(仮)」。仕事に対してどれだけポジティブなイメージを持っているかが、進路選択や職業観などに大きな影響を与える可能性が示唆されました。

14:00-15:00 ゲスト講演
経済産業省 下村貴裕氏

学校と社会の距離を縮め、 理論と実践の融合を果たす

激変する社会の中で若者に求められる能力として経産省が提唱する「社会人基礎力」の概要とその取り組みについて講演いただきました。日本全国の7大学における課題解決型授業、実践型インターンシップの事例をもとに、「プログレスシートにより、若者の成長を行動事実をもとに評価する」「企業の人からの一言が、若者に大きな気付きを与える」という事実を紹介。最後は「学校と社会の距離を縮め、生涯を通して成長を続けることが必要」というメッセージで締めくくりました。



今回の研究会はどうでしたか? ~参加者アンケートより~

●調査結果について、学校広報、教育、進路指導への関連性などに触れてもらえるとさらに良かった●経産省の下村氏の話は、より企業に近い立場からの話で専門学校に合った内容だと感じた●学生にコミュニケーション能力が必要なのは分かるが、備わっていない学生の対応をどうするかが問題●アンケートを通して、高校生の仕事に対する意識の高さを予想以上に感じた●調査報告や下村氏の講演を、本学での組みに活かしたい●各校の取り組み紹介の時間があっても良いかもしれない



15:00-16:00 学校紹介&ライブ見学 職業ではなく「プロになること」を目指す教育

会場をお借りした、専門学校 東京ミュージック&メディアアーツ尚美様のご厚意で、学生による生ライブを見学。ステージに立つ演奏者だけでなく、バックステージで彼らを支える音響や照明のスタッフ達がいきいきと活躍する姿が印象的でした。社員やアルバイトといった働き方にとらわれず、「プロフェッショナル」になることを目指し、学生と教員・スタッフが丸となって取り組む学校の教育姿勢を、肌で感じました。



このホールの大きさは圧巻



レコーディング室で爆音体験!?



事務長の武内さん

議論の質が高まっていると感じる

(参加者感想)



16:00-17:00 ディスカッション たまってきた疑問を一気に放出!

最後は、ゲストの下村氏も交えて全員でディスカッションを実施しました。

<発言集>

●目的意識があるかは分からないが、授業などにきちんと出席するまじめな学生が増えてきている●若者が全ての社会人基礎力を身につけることは難しいのでは?●年々過熱する就職活動を押さえる動きは官庁にはあるのか?●外資系企業の採用時期は早い、離職率が高いわけではない。社会人としての意識をどのように持たせるかというプロセスの設計が重要なのでは●官庁がリーダーシップを発揮しすぎるのは危険。現場に主導を任せ、フォローシップを発揮してほしい●仕事に求められる価値観は、今と昔では天動説と地動説くらいに全く異なる●仕事では創造力が重要と言われていたが、実際には経営者レベルの人間にしか求められていない●音楽の専門学校から製造業に就職し、力を発揮する学生もいる●過去のしごと観との比較ではなく、新しいしごと観をゼロから定義すべき●個人ではなく、個人が社会とどのように関わるかを考えることが重要●29歳になった卒業生が就職相談にやってくるも一緒に考える●若者が社会を変えたいという意識を持ち、実際に変えるためには、まず社会に参加することが必要●就職活動がうまくいっていない学生には頑張れとは言わない。彼らは既に頑張っている。いかに一緒に頑張って頑張るかが重要

次回研究会は6月下旬~7月中旬に大阪にて開催予定です。お問い合わせ: "しごと観育成" 研究会事務局 info@npo-kgc.or.jp